

＝ 卷頭文 ＝

ワシントンDCの思い出

森 成城

日本銀行 広島支店長



大接戦となったアメリカ大統領選挙が、ようやく決着した。舞台となったホワイトハウスがある首都ワシントンDC（コロンビア特別行政区）は、私の思い出の地である。日本銀行は同地に駐在事務所を置いており、私は2007年7月から3年間、ワシントン事務所長を務めた。いくつか思い出を記したい。

まず思い出すことは、アメリカを震源とした国際金融危機である。読者の皆さんも、リーマン・ショックは記憶に残っていると思う。リーマン・ブラザーズという金融機関が2008年9月に破綻し、世界の金融市場が大混乱に陥った。その結果、世界の金融システムが機能不全になり、アメリカのみならず日本やヨーロッパなど主要な国・経済地域において深刻な景気後退が発生した。最近、コロナウイルス感染症による経済への影響がリーマン・ショックの経済への影響と比較されるが多く、私も思い返すことが増えた。次に思い出すことは、2008年11月の大統領選挙である。この大統領選挙に勝利し、

2009年1月に大統領に就任したのは、現職大統領として初めて被爆地・広島を訪問したオバマ大統領であった。オバマ大統領の就任式を見るため、酷寒の中、ワシントンDC中心部のリンカーン記念堂近くまで行った。おそらく200万人を超える大群衆が集まっていた。多くのアフリカ系アメリカ人が、オバマ大統領の就任演説に耳を傾けながら嬉し涙を流す姿を目の当たりにし、感動したことは忘れられない。

バイデン次期大統領は、オバマ大統領の副大統領であった。上院議員としての経験を生かし、オバマ大統領を支えた穏やかな笑顔の人格者というイメージが残っている。コロナウイルス感染症など内外に様々な課題を抱える大変な時期に就任する。財務長官にイエレン前FRB議長など主要閣僚の人選を見ると、各分野の専門家を配する安定感のある新政権になると期待したい。日本にとって経済・外交の重要なパートナーであるアメリカの動向に注目している。